

公益社団法人 日本水産学会
平成 25 年度第 5 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 25 年 9 月 19 日(金) 10 時 30 分～14 時 48 分
- 2 開催された場所 国立大学法人三重大学
三翠会館多目的ホール(三重県津市栗真町屋町 1577)
- 3 理事総数及び定足数
総数 20 名、定足数 11 名
- 4 出席理事数 18 名
(本人出席) 金子豊二、河原栄二郎、黒倉 壽、小谷祐一、嵯峨直恆、
桜井泰憲、佐竹幹雄、佐藤秀一、佐藤 實、鈴木伸洋、東海 正、
松山倫也、皆川 恵、鷺尾圭司、和田時夫、渡邊良朗、渡部終五
(途中出席) 大越和加(平成 25 年度秋季大会委員長の挨拶終了後の 10 時 37 分に出席)、
(監事出席) 阿部宏喜、瀬川 進
(幹事出席) 遠藤英明、宮本佳則、田代有里、高井則之、大迫一史、塩出大輔
(途中退席) 高井則之(報告事項 第 4 回理事会以降の職務執行の状況中の 14 時 33 分に退席)
(オブザーバー) 加納 哲(平成 25 年度秋季大会委員長、10 時 37 分に退席)
- 5 議 案
決議事項 第 1 号議案 「北里大学の会員の所属支部について」の件
第 2 号議案 「日本水産学会論文賞選考についての申合せ事項の一部改正」の件
第 3 号議案 「寄附金の使途」の件
第 4 号議案 「選挙管理委員選出」の件
第 5 号議案 「名誉会員 平野禮次郎氏の追悼文」の件
第 6 号議案 「平成 26 年度春季大会委託運業者」の件
第 7 号議案 「平成 26 年度春季大会募金目論見書」の件
第 8 号議案 「平成 26 年度秋季大会」の件
第 9 号議案 「平成 27 年度春季大会担当機関」の件
第 10 号議案 「平成 27 年度秋季大会担当支部」の件
第 11 号議案 「創立 85 周年記念事業検討委員会(特別委員会)の設置」の件
第 12 号議案 「調査委員会の設置」の件
第 13 号議案 「日本学術会議主催学術フォーラム共催」の件
第 14 号議案 「日本学術会議主催学術フォーラム実行委員会の設置及び委員長・委員選出」の件
第 15 号議案 「日本学術会議主催学術フォーラム寄附金目論見書」の件
第 16 号議案 「水産学若手の会」の件
第 17 号議案 「第 12 回日本農学進歩賞受賞候補者推薦」の件
第 18 号議案 「共催、協賛及び後援」の件
第 19 号議案 「入会承認」の件
第 20 号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

報告事項 農学研究に係る要望書提出について
アメリカ水産学会との学術交流協定書および覚書締結について
除名者(会費未納)の会費納入による退会者への変更について
平成 24・25 年度支部幹事の変更について

寄附金について

2014年度 Fisheries Science 誌(80巻)のカバーページの写真とデザインについて
Fisheries Science 誌カバーページ写真の著作物利用契約について

平成25年度科学研究費助成事業研究成果公開促進費(国際情報発信強化)の
取り組みについて

Fisheries Science 誌における日本海の英語表記について

2012年の Fisheries Science 誌のインパクトファクターについて

東日本大震災への対応および復興支援の関連活動記録の配布について

シュプリンガー・ジャパンとの英文書籍 Fisheries Science Series の刊行に関する契
約について

英文書籍 Fisheries Science Series として進行中の企画について

第4回理事会以降の職務執行の状況

その他

6 議事の経過及びその結果

(1)平成25年度秋季大会委員長の挨拶

渡部会長の挨拶の後、三重大学 加納 哲 大会実行委員長より挨拶があった。本大会では、口頭発表263題とポスター発表149題で発表総数412題、シンポジウム2件、ミニシンポジウム3件、研究会主催の講演会3件及び高校生のワークショップ(パネルディスカッション)1件であるとの報告がされた。

(2)定足数の確認等

東海総務担当理事が定足数の充足を確認し、続いて渡部会長から本会議の議事進行について説明があった。

(3)議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、渡部会長が議長となり、本会議の成立を宣言し、議案の審議に移った。

(決議事項)

第1号議案「北里大学の会員の所属支部について」の件

東海総務担当理事より、東日本大震災により北里大学海洋生命科学部が相模原キャンパスに移転したことに伴い、同学部所属会員の所属支部を東北支部に置く特例措置、及びその特例措置を解除した場合の支部交付金と支部幹事定数のシミュレーション等に関する説明があった。また、小谷東北支部担当理事より、当該会員への意向確認、支部幹事へのアンケート結果、及び支部事務局内での検討結果等に関する説明があった。

本議案について以下の質疑応答があった。

渡部会長「東北支部の支部交付金及び支部幹事定数がこれまで以上に少なくなる。所属支部の規定はどうなっているのか。」

東海理事「所属支部の定義は、学会誌の発送先住所である。」

黒倉理事「関東支部としては、北里大学の会員が関東支部へ所属変更しても問題ない。」

東海理事「本年、支部幹事選挙および理事候補者等選出があり、また次年度の支部交付金の予算計画のためにも、支部会員が確定している必要がある。」

嵯峨理事「震災復興支援や東北支部を積極的に支援することを付帯決議として理事会で提案できないか。」

鷺尾理事「今回の選挙は、現在の会員所属で実施するのか。」

東海理事「現時点では、次回の選挙から所属支部が変更されることになる。このままでは、今年度の選挙で、北里大学の会員はいずれの支部幹事あるいは支部理事にも

なれない。なお、今年度は9月末に支部幹事に支部幹事選挙の依頼をお願いする予定である。」

阿部監事「選挙人名簿の修正だけなので、関東支部と東北支部に対して修正名簿を送付することで対応できないか。会員の権利を守る必要がある。」

事務局「今年度の選挙でもそうした修正の対応は可能である。」

審議の結果、北里大学の会員所属の特例措置は平成25年度末で解除することを出席理事全員一致で可決した。なお、9月の学会誌で通知済みの支部幹事選挙及び理事候補者選出のための関東支部と東北支部の選挙人名簿を修正、通知して、選挙、選出を実施する。また、付帯決議を行うこととし、その素案については、小谷理事と学会本部で作成して会長に一任することが了承された。

第2号議案「日本水産学会論文賞選考についての申合せ事項の一部改正」の件(別紙1)
佐藤(秀)編集担当理事から、申し合わせ事項の改正案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第3号議案「寄附金の使途」の件(別紙2)

金子財務担当理事から、寄附金の使途について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第4号議案「選挙管理委員選出」の件

東海総務担当理事から、選挙管理委員会運営規程について説明があり、平成25年度の選挙管理委員候補者の提案が示され、審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

[選出] 菅野信弘、舞田正志、高田健太郎

第5号議案「名誉会員 平野禮次郎氏の追悼文」の件

東海総務担当理事から追悼文の著者についての説明があった。

本議案について以下の質疑応答があった。

東海理事「追悼文は、和文と英文で同一著者1名で作成することが慣例とされている。今回は、和文と英文で著者が異なり、かつ複数著者が当初希望された。今後このような追悼文の著者が希望される可能性がある。」

黒倉理事「英文の著者となっていたが、日野会員が代表で問題ない。」

渡部会長「和文と英文で著者が異なっても問題ないのではないか。」

審議の結果、日野明徳会員を代表著者1名とすることで追悼文を掲載することが出席理事全員一致で可決した。また複数著者については、今後審議することを出席理事全員一致で可決した。

第6号議案「平成26年度春季大会委託運営業者」の件

嵯峨北海道支部担当理事から、平成26年度春季大会委託運営業者について、数社の見積もりを検討した結果、トーヨー企画(株)に決定したいとの説明があり、審議の結果、出席理事全員一致でこれを可決した。

第7号議案「平成26年度春季大会募金目論見書」の件

嵯峨北海道担当理事から、同議案について、平成26年度日本水産学会春季大会実行委員会において平成25年10月3日(木)から平成26年2月28日(金)までの間、寄附(協賛)金の募集を行う旨説明があった。

本議案について以下の質疑応答があった。

渡部会長「募金目論見書には“高校生による研究発表会”の記述はあるのか。」

東海理事「寄附金の使途に必要なため、事務局より大会実行委員会へ記載をお願いしている。」

審議の結果、平成26年度春季大会募金目論見書について出席理事全員一致で可決

した。

第 8 号議案 「平成 26 年度秋季大会」の件

松山九州支部担当理事から、平成 26 年度秋季大会について説明があり、審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

日程 平成 26 年 9 月 19 日(金)～22 日(月)

会場 九州大学箱崎文系キャンパス

大会委員長 松山倫也

第 9 号議案 「平成 27 年度春季大会担当機関」の件

東海総務担当理事から、平成 27 年度春季大会担当機関は東京海洋大学としたい旨提案があり、審議の結果、同機関が担当することを出席理事全員一致で可決した。

第 10 号議案 「平成 27 年度秋季大会担当支部」の件

東海総務担当理事から、平成 27 年度秋季大会担当支部は東北支部を候補する旨の提案があり、審議の結果、同支部で検討することを出席理事全員一致で可決した。

第 11 号議案 「創立 85 周年記念事業検討委員会(特別委員会)の設置」の件

渡部会長から、創立 85 周年記念事業案について説明があり、東海総務担当理事からその詳細についての補足説明および記念事業実行委員会(特別委員会)設置についての提案があった。審議の結果、記念事業検討委員会(特別委員会)の設置について出席理事全員一致で可決した。

第 12 号議案 「調査委員会の設置」の件

渡部会長から “ 本会に対す 申し立て ” があり調査委員会の設置が妥当であると説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で調査委員会の設置を可決し、今後は弁護士と相談しながら対応することとした。

第 13 号議案 「日本学術会議主催学術フォーラム共催」の件

渡部会長から同議案について説明があり、佐藤(秀)総務担当理事からその詳細についての補足説明があった。審議の結果、本フォーラムへの共催を出席理事全員一致で可決した。

第 14 号議案 「日本学術会議主催学術フォーラム実行委員会の設置及び委員長・委員選出」の件

佐藤(秀)総務担当理事から同議案について説明があり、審議の結果、本会内に標記委員会を設け、その委員長・委員を出席理事全員一致で次の通り可決した。

委員長 竹内俊郎

副委員長 佐野元彦

委員 工藤貴史、西部裕一郎、横田賢史

第 15 号議案 「日本学術会議主催学術フォーラム寄附金目論見書」の件

金子財務担当理事及び東海総務担当理事から、日本学術会議主催学術フォーラム寄附金募集についての説明があった。本議案について以下の質疑応答があった。

鷲尾理事「寄附が運営資金の全てとなるのか？主催者(日本学術会議)は応分の負担をするのか。名義貸しとならないか。」

東海理事「学会は負担金なしで共催としている。学会内の実行委員会が寄附金の募集を行う。」

渡部会長「日本学術会議は、当該学術フォーラム開催のための自己財源を有さず、会場を提供し事務手続き等を行なう。日本学術会議は、募金等は受け付けられない。本会内に設置した実行委員会が寄附金の使用を執行することは、監事より問題ない事を確認している。」

佐藤(實)理事「募金が集まらなかった場合に、負担金が発生するのか？」

東海理事「負担金なしで共催としているので学会としては負担しない。」

審議の結果、日本学術会議主催学術フォーラムの募金目論見書を出席理事全員一致で可決した。

第 16 号議案 「水産学若手の会」の件

渡部会長より、これまでの経緯と趣旨について説明があり、本議案について以下の質疑応答があった。

佐藤(實)理事「学会内での「水産学若手の会」の位置は？」

渡部会長「出来るだけ理事会として制約を設けたくない。」

佐藤(實)理事「予算については、どう考えるのか。」

渡部会長「研究会等費用についてはある程度の制限がかかる。準備会がスタートして、その中で要求を検討する。」

審議の結果、「水産学若手の会」の発足を出席理事全員一致で可決した。

第 17 号議案 「第 12 回日本農学進歩賞受賞候補者推薦」の件

佐藤(實)学会賞担当理事から説明があり、審議の結果、出席理事全員一致で次の会員の推薦を可決した。

大久保^{かたあき}範聡(東大院農)「魚類の脳の性成熟機構に関する研究」

第 18 号議案 「後援と協賛」の件

東海総務担当理事より共催希望 1 件、協賛希望 3 件、及び後援希望 4 件について説明があり、審議の結果、出席理事全員一致で以下の共催、協賛、及び後援を可決した。

共催： 日本学術会議主催学術フォーラム

「東日本大震災からの水産業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて」

主催 日本学術会議

共催 食料科学委員会水産学分会、水産・海洋科学研究連絡協議会

後援 水産庁 他 17 団体(予定)

日程 平成 25 年 11 月 29 日(金)

場所 日本学術会議講堂(東京都港区)

希望 共催

負担金 なし

協賛： 第 10 回アジア・太平洋キッチン&キトサンシンポジウム

第 27 回キッチン・キトサンシンポジウム

主催 日本キッチン・キトサン学会

共催 日本化学会、日本生物工学会

協賛 日本農芸化学会 他 11 学協会

日程 平成 25 年 10 月 4 日(金)~8 日(火)

場所 米子コンベンションセンター(鳥取県米子市)

希望 協賛

負担金 なし

第 13 回基準油脂分析試験法セミナー

主催 日本油化学会

協賛 日本農芸化学会 他 4 学会

日程 平成 25 年 11 月 25 日(月)・26 日(火)

場所 油脂工業会館(東京都中央区)

希望 協賛

負担金 なし

第 52 回海中海底工学フォーラム in 東北

主催 海中海底工学フォーラム運営委員会、東北大学災害科学国際研究所
共催 東京大学生産技術研究所
協賛 日本船舶海洋工学会 他 6 団体
日程 平成 25 年 10 月 11 日(金)
場所 東北大学青葉キャンパス工学部中央棟(宮城県仙台市)
希望 協賛
負担金 なし

後援: 平成 25 年度「やまぐちグリーン部材クラスター」研究成果発表会 in Tokyo

主催 やまぐちグリーン部材クラスター本部
共催 山口大学、水産大学校 他 5 団体
後援 文部科学省(予定)
日程 平成 25 年 11 月 8 日(金)
場所 第一ホテル東京シーフォート(東京都品川区)
希望 後援
負担金 なし

公開コロキアム

「減る水産物、増える海獣 - 絶滅危惧の水産生物と持続可能な漁業 - 」

主催 横浜国立大学統合的的海洋教育・研究センター
後援 海洋研究開発機構 他 3 団体
日程 平成 25 年 9 月 28 日(土)
場所 横浜国立大学教育文化ホール大集会室(神奈川県横浜市)
希望 後援
負担金 なし

平成 25 年度日本農学会シンポジウム

「農学イノベーション - 新しいビジネスモデルと食・農・環境における技術革新 - 」

主催 日本農学会
後援 日本農学アカデミー 他 7 団体
日程 平成 25 年 10 月 5 日(土)
場所 東京大学農学部弥生講堂(東京都文京区)
希望 後援
負担金 なし

国際水圏メタゲノムシンポジウム

—水圏メタゲノミクスの展開と水圏生物多様性研究の展望—

主催 水産総合研究センター、北里大学
後援 文部科学省 他 12 団体
日程 平成 25 年 11 月 23 日(土)・24 日(日)
場所 北里大学薬学部コンベンションホール(東京都港区)
希望 後援
負担金 なし

第 19 号議案 「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

第 20 号議案 「正会員から学生会員へ会員資格変更の承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

(報告事項)

農学研究に係る要望書提出について

東海総務担当理事より、本件について書面決議(平成 25 年 7 月 10 日)を行ったことが報告された。

アメリカ水産学会との学术交流協定書および覚書締結について

東海総務担当理事より、本件について書面決議(平成 25 年 7 月 30 日)を行ったことが報告された。

除名者(会費未納)の会費納入による退会者への変更について

東海総務担当理事より岡村和磨氏(正会員、平成 12 年度除名)が会費納入により退会者に変更されたことが報告された。

平成 24・25 年度支部幹事の変更について

東海総務担当理事より次の支部幹事の変更が報告された。

中部支部 鈴木 譲(関東支部へ異動) 片野 修(選出)
中国・四国支部 井関和夫(九州支部へ移動) 板倉 茂(選出)

寄附金について

金子財務担当理事より、岡本信明会員より 50,000 円(平成 25 年 7 月 16 日付)、(一財)東和食品研究所より用途特定寄附金(協賛金)600,000 円(平成 25 年 7 月 25 日付)の寄附金を受け入れたことが報告された。

2014 年度 Fisheries Science 誌(80 巻)のカバーページの写真とデザインについて

佐藤(秀)編集担当理事より次のように報告された。

「戸切地川に生息するイワナ」 小林由紀(北大院水)
「日本海のガラモ場」 五島 幸太郎(日本ミクニヤ株)
「東日本大震災後 6 ヶ月で操業を再開した重茂半島のサバ漁」 黒倉 壽(東大院農)
「長崎県五島列島奈良尾地区の伝統食品の“紀寿司”」 桑原浩、川口和宏(長崎水試)
「ニベの胚体形成卵」 吉崎悟朗(海洋大)

Fisheries Science 誌カバーページ写真の著作物利用契約について

佐藤(秀)編集担当理事より、Fisheries Science 誌のカバーページ写真の著作権について、提供者が著作権を保持し、学会は写真をカバーページおよび関連する広報活動に利用できるものとする契約書を用いることとなったことが報告された。

平成 25 年度科学研究費助成事業研究成果公開促進費「国際情報発信強化」の取り組みについて

佐藤(秀)編集担当理事より本件の取組みについて次の報告がされた。

1) アメリカ水産学会 143 回年次大会における日本水産学会ブースでの Fisheries Science 誌の展示

2) Fisheries Science 誌総説執筆者の決定

竹内俊郎(学会賞受賞者)「海産魚貝類種苗の健全性向上に関する研究」
田中秀樹(学会賞受賞者)「ウナギの人口種苗生産に関する研究」
青木 宙(学会賞受賞者)「魚介類の生態防御に関する研究」
帰山雅秀(国際交流委員会推薦、2011 年第 3 回日米水産学会合同シンポジウム)
「気候変動と太平洋サケ科魚類」

Fisheries Science 誌における日本海の英語表記について

佐藤(秀)編集担当理事より、Fisheries Science 誌では日本海は、“Sea of Japan”及び“Japan Sea”と表記する旨の再確認が行われたことが報告された。

2012 年の Fisheries Science 誌 インパクトファクターについて

佐藤(秀)編集担当理事よりインパクトファクターの一層の向上を目指して行くことが報告

された。

東日本大震災への対応および復興支援の関連活動記録の配布について

渡部会長より、7月上旬に活動記録冊子(500部)を県市町村の関係箇所、大学機関、水産試験場等に全て配布したことが報告された。

シュプリングージャパンとの英文書籍 Fisheries Science Series の刊行に関する契約について

東海総務理事より、英文書籍の契約について最終調整していることが報告された。

英文書籍 Fisheries Science Series として進行中の企画について

東海総務理事より、英文書籍監修委員会で次の内容の企画を進めていることが報告された。

1) Title: Eternal ocean: Finding sustainability in dynamics of fisheries resources and marine ecosystems

Edited by Ichiro Aoki, Takashi Yamakawa and Akinori Takasuka

2) Title: Closed Recirculating Aquaculture Systems in Japan

Edited by Toshio Takeuchi

3) Title: Rotifers as Initial Live Food Organism: Basics and Applications

Edited by Atsushi Hagiwara

第4回理事会以降の職務執行の状況

・企画広報関係

佐藤(秀)担当理事より、東日本震災に関する情報を発表する場の提供を求めているとの報告がされた。また、平成26年春季大会において、“震災からの復興水産研究に求められる視点―”(仮題)の勉強会を開催予定であることが報告された。

・学会賞関係

佐藤(實)担当理事より、本理事会終了後第2回学会賞選考委員会を開催する。農学賞から推薦依頼があったが学会内からの推薦がなかったため、日本水産学会賞もしくは功績賞の受賞者から推薦することが報告された。

・シンポジウム関係

渡邊担当理事より、平成25年9月20日(土)にシンポジウム企画委員会を開催し、来年度秋季大会以降のシンポジウムについて検討することが報告された。

・水産技術誌関係

和田担当理事より、平成25年8月2日(金)に監修委員会を開催し、電子投稿に対応した論文書き方の修正を検討している。第6巻(1)の刊行が遅れているが、原著論文6、総説1、技術小誌1他都合12論文を掲載し10月の刊行の予定である。第6巻(2)については、平成26年2月に刊行予定であることが報告された。

・ベルソープックス関係

東海担当理事より、平成25年7月5日(金)に委員会を開催し、従来の企画の中で進捗が遅れているものの対応について検討したことが報告された。

・国際交流関係

和田担当理事より以下が報告された。

- 1) 平成25年8月29日(木)付けで、アメリカ水産学会との学术交流協定書及び覚え書きを調印した。
- 2) アメリカ水産学会143回年次大会に佐藤秀一国際交流委員長が出席し総会での挨拶及びアメリカ水産学会の国際交流委員会に参加した。
- 3) 平成25年11月22日(金)に開催される韓国水産科学会の国際シンポジウムへの参加発表の招聘されている。

- 4) 平成 26 年 8 月 11 日(木)カナダ・ケベックで開催されるアメリカ水産学会 144 回年次大会において、アメリカ水産学会とイギリス諸島水産学会との第 2 回合同シンポジウムが“日米英及びカナダに生息するサケ科魚類などの水産資源及びその利用”をテーマとして開催予定である。
- 5) 平成 26 年に中国で“水産食品生産・加工”のテーマで第 1 回日中韓合同シンポジウムが開催予定である。
- 6) イギリス諸島水産学会との学术交流協定書の調印に向けて準備中である。

・水産教育関係

黒倉担当理事より、“海と魚のコンクール”へ審査委員の派遣と件の小学校への出前授業を実施していることの報告がされた。また、各支部において出前授業の講師候補を検討していただきたいとの依頼があった。

・水産政策会関係

桜井担当理事より、東日本大震災災害復興検討委員会との情報交換を行なっているとの報告がされた。

・漁業・資源管理関係

渡邊担当理事より、平成 25 年 9 月 19 日(金)に漁業懇話会委員会が開催され今年度前半の報告と後半の計画について討議した。漁業懇話会奨励賞の候補者を 10 月中に決定することが報告された。平成 26 年春季大会において“北海道周辺の海獣被害”をテーマとした第 63 回講演会を開催予定であることが報告された。

・水産増殖関係

佐藤(秀)担当理事より次の報告がされた。

- 1) 平成 25 年 9 月 19 日(金)に水産増殖懇話会委員会を開催した。
- 2) “カワハギ類の養殖現状と展望”のテーマで第 1 回水産増殖懇話会を実施。
- 3) 平成 26 年 2 月 8 日(土)に“最新の技術を利用した水産育種”のテーマで第 2 回水産増殖懇話会を東京海洋大学品川キャンパスで開催予定。

・水圏環境関係

鷲尾担当理事より、水圏環境保全委員会とシンポジウムを平成 25 年 9 月 22 日(日)に開催予定であることが報告された。

・将来計画関係

和田担当理事より、次期の将来計画検討へ向けた論点整理を今年度検討していることと、その素案が報告された。本報告について以下の質疑応答があった。

東海理事「素案は、このままであると理事会での資料に留まる。」

和田理事「これは素案であるので、会長及び関連担当理事と検討して次回の理事会に提案できる案を作成したい。」

渡部会長「その案をパブリックコメントのような形にして会員に意見を求めたい。」

嵯峨理事「日本語で記載できる用語は、できる限り日本語で記載をお願いしたい。」

黒倉理事「あえてカタカナ用語の説明が必要な場合もある。」

和田理事「日本語で説明できない用語もあるが、カタカナ用語では十分に意図が伝わらない場合もあるので、検討する。」

鈴木理事「支部と学会本部のあり方や、行政と学会との繋がりについて検討が必要なので、たたき台の段階でも支部への回覧などを検討してもらいたい。」

・男女共同参画推進関係

大越担当理事より、平成 25 年 9 月 19 日(金)に第 2 回委員会を開催した。また、平成 25 年 6 月と 8 月には男女共同参画学協会連絡会運営委員会に参加した。平成 25 年 10 月 7 日(月)には、男女共同参画学協会連絡会主催で開催されるシンポジウムに参加予

定である。昨年度実施した大型アンケートを水産学会用に解析ならびに報告書を発行することについて東京海洋大学女性研究者支援機構に協力を依頼したことが報告された。

・科学研究費補助金分科細目等検討担当

桜井副会長から、今年度中に整理することが報告された。

・支部関連

嵯峨理事(北海道支部担当)から平成 25 年 12 月 20 日(金)・21 日(土)に北海道支部大会を札幌で開催、平成 26 年 3 月 27 日(木)から 31 日(月)に平成 26 年度春季大会を北海道大学水産学部(北海道函館市)で開催することが報告された。

小谷理事(東北支部担当)から平成 25 年 11 月 8 日(金)・9 日(土)に支部大会を盛岡市内で開催予定であることが報告された。初日は、“沿岸漁業に於ける東日本大震災からの復興と展望”がテーマのミニシンポジウムを開催する。この期間中に幹事会を開催予定。

黒倉理事(関東支部担当)から平成 25 年 8 月に幹事会を開催し、北里大学の会員の異動について検討を始めている。また、関東支部で開催する大会の担当機関へ北里大学をどの様に組込むかを検討していることが報告された。関東支部は例会を行っていないので若手の会への支援も検討しているとの報告がされた。

鈴木理事(中部支部担当)から平成 25 年 9 月 21 日(土)に三重大学で支部大会、総会、幹事会を開催、及び三重大学と共催で水産系高校生のキャリアアップ・ワークショップを開催することが報告された。

河原理事(中国・四国支部担当)から、例会(研究発表とミニシンポジウム)を平成 25 年 11 月 16 日(土)・17 日(日)に愛媛県宇和島市で開催することを決定したことが報告された。

松山理事(九州支部担当)から平成 25 年 7 月 20 日(土)に支部幹事会を開催。平成 25 年 12 月 6 日(金)に“大分県の水産業に貢献する試験研究”をテーマにシンポジウムを大分県で開催することが報告された。

その他

・平成 26 年度科学研究費助成事業(科研費)の申請について

佐藤(秀)理事より、平成 26 年度科研費の基盤研究(B・C)の審査区分に「特設分野研究」が設けられ、その中の「食料循環研究」の分野が設けられている。この審査区分は、重複応募が可能なので周知をお願いしたとの案内があった。

・書面決議について

東海総務担当理事から、書面決議については理事会議事録に記載することで会員に周知したいとの報告があった。

・次回理事会の開催について

渡部会長より、次回第 5 回理事会は平成 25 年 12 月 7 日(土)13 時から、国立大学法人東京海洋大学品川キャンパスで開催する予定である旨確認があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、14 時 48 分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長(代表理事)及び監事は記名押印する。

平成 25 年 9 月 19 日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長(代表理事)

印

監事

印

監事

印